



大阪市男女いきいき財団

ニュース NEWS

vol.42
2021.06



— ハイライト 2020 —

コロナ下の今、わたしたちにできること。



What's 大阪市男女いきいき財団?

ダイバーシティ（多様性）の時代。私たちがめざすのは、地域の皆さん、企業、学校、行政機関などと連携し、誰もがイキイキ暮らせる社会を創ることです。大阪市立男女共同参画センター（クレオ大阪）5館をはじめとする公共施設の管理・運営や、悩み相談、研修・啓発事業などを通じて、すてきな未来づくりのお手伝いをしています。



法人向け会員制度スタート 職場のダイバーシティ推進を支援

あなたの職場では、準備できていますか？

改正労働施策総合推進法（パワハラ防止法）の施行により、職場のハラスメント対策が急務となっています。

これまでの「発生後」の対策だけでなく、ハラスメントに関する研修や、相談窓口の整備など、発生を防止する体制づくりが義務化されました。罰則規定はないものの、従業員にとって不利な処遇をした場合、厚労省から企業名を公表される可能性も。そうなれば、顧客との信頼関係や採用活動への

マイナスの影響は避けられません。パワハラ防止はいまや、企業の経営戦略として取り組む課題なのです。

従業員数300人以下の中小企業（※）も、猶予期間を経て、2022年4月からこの法律が適用されます。しかし、現場の担当者からは「業務量が増え、負担が大きい」「窓口はあるものの、実際の利用につながっていない」といった声も聞こえます。

※業種により要件が異なります。

パッケージの一例

ライフサポート相談	職場や家庭でのお困りごとを、従業員の方が直接、匿名で相談できます。
社内研修の企画・実施	組織が抱える課題に合わせて、人材開発・組織開発にむけた社内研修プログラムの企画・提案から講師の派遣までトータルプロデュース。
ハラスメントの社外相談窓口対応	相談された従業員の方のプライバシーを守り、人事・総務担当者と連携して再発防止策を検討します。
メールマガジンの配信	最新の法改正に関する情報や、専門家によるコラムなど、人事・総務担当者にとって役立つ内容を毎月配信。
他企業・他団体の女性活躍支援事業の事例紹介	新たな事業やプロジェクトを始める際に参考になりそうな、先進的な事例を紹介します。

社外だからこそ 専門的に安心サポート



そんな企業の方のニーズに応えようと、2021年1月からスタートさせたのが、大阪市男女いきいき財団の法人向け会員サービスです。社内研修のほか、職場・家庭での困りごとに応じる「ライフサポート相談」、女性活躍推進に関する先進事例の情報提供などを、企業の担当者の要望に応じてパッケージ化。職場でのパワハラ防止やダイバーシティ推進につなげます。

財団ではこれまで、数多くの企業や学校向けのオーダーメイドセミナーを実施。法人向けパッケージでも、幅広い講師の人脈から、ハラスメントのほか、育休復帰、LGBTs、ストレスマネジメントなど、多彩なテーマでの研修をご用意します。ライフサポート相談は、クレオ大阪で、女性や男性の悩み相談を年間15,000件受けている実績を生かします。「部署での人間関係が辛い」といった職場の悩みから、「親の介護と仕事の両立が不安」「夫婦関係に問題を抱えている」といった家庭でのお悩みまで。専門相談員が悩みや現状について傾聴し、信頼関係を構築します。内容によっては、弁護士や社会保険労務士などの専門職につながります。匿名OK・秘密厳守ですが、社内でのハラスメント行為について相談者が希望する場合は、人事・総務担当者と連携し、再発防止策も

検討します。利害関係のある社内では言いにくいことも、社外の専門相談員だからこそ安心して頼ることができます。

ライフサポート相談

専門相談員

相談方法が選べます

- 職場での困りごと
 - ✓ パワー・ハラスメント
 - ✓ セクシュアルハラスメント
 - ✓ 労働環境
 - ✓ 人間関係
- 家庭での困りごと
 - ✓ 介護
 - ✓ 育児
 - ✓ 夫婦関係
 - ✓ 相続
 - ✓ 退職後の生活設計

風通しのよい職場は、従業員満足（ES）を高め、離職防止や生産性向上にもつながります。誰もが働きやすい職場づくりに向けて、私たちと一緒に始めませんか？



人間らしい仕事を実現するために 今こそ職場のハラスメント対策を

大阪市のハラスメント調査結果より

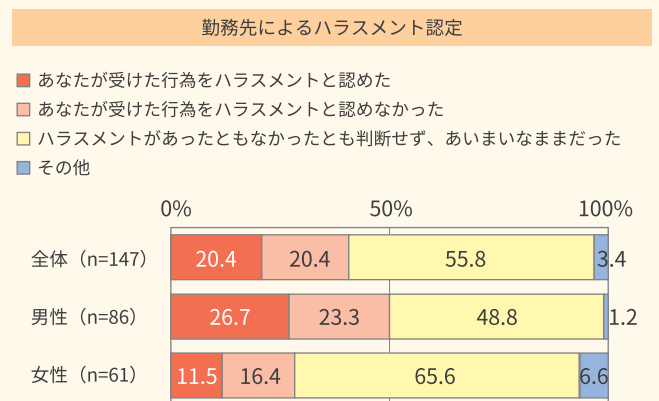


服部 良子 クレオ大阪中央研究室長

クレオ大阪中央研究室では、2020年度に大阪市の在住・在勤者を対象に「職場におけるハラスメント実態調査」を行いました。パワー・ハラスメント（パワハラ）に加えてセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）など、他のハラスメントも合わせて調査対象としています。「仕事の場」における多様なハラスメントについて、被害経験、見聞きした経験、そしてハラスメントを行ったという関与経験に関する実態調査の結果は、仕事におけるジェンダーの「格差」や「差別」の実情を顕著に示していました。

ハラスメント認定があいまい 男女に対応の差

例えば、勤務先がハラスメントをされたと認定した割合について、女性は男性の半分以下となっています。それだけではなく、勤務先がハラスメントについて「あいまいなまま判断しない」割合は、女性の方が約20ポイント高くなっています。勤務先が「相談にのる」ことや「事実確認する」ことにも、勤務先の対応が男女で差がみられました。

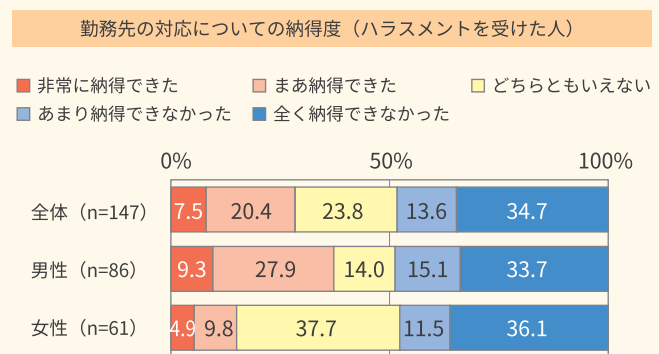


令和2年度「職場におけるハラスメント実態調査」(大阪市)より作成

不満を感じてもあきらめや我慢… 弱い立場の女性社員



勤務先の対応に対する納得度についても、女性は「どちらともいえない」とする割合が男性の約2.5倍を超えています。女性自身も勤務先の不十分な対応に「誰にでもあることなので気にしなかった」（自由記述より）等、あきらめやどうしようもないものとして、ある程度受け入れざるをえない状況がみてとれます。これは、女性の方が非正社員の割合が高いことと関連することが推測されます。



令和2年度「職場におけるハラスメント実態調査」(大阪市)より作成

「たとえハラスメントでも不満を漏らせば仕事しづらくなるだけでなく、下手すれば辞める羽目になりそうなので、我慢もしくはスルーするしかなかった」（自由記述より）。そうした声に代表されるように、我慢あるいは流すという対応の結果が、勤務先の対応に対して「なんともいえない」という回答につながっているのでしょうか。弱い立場であるからこそ、声の上げづらさは容易に想像がつかます。

ジェンダーに配慮した雇用環境整備を

これらの実態は、女性に対するハラスメントが軽視される傾向にあり、結果的に女性の活躍推進の阻害要因になっていることを示しているといえるでしょう。その改善に向けては、まずはジェンダーに配慮した雇用環境整備のアプローチが必要です。さらにSDGsでうたっているように日本社会が「人間らしい仕事の仕方（＝ディーセント・ワーク）」を持続可能にするためには、ハラスメントが仕事の場で許されてはなりません。なぜならハラスメント対策は女性の活躍やエンパワメントのみならず、男性をはじめ、あらゆる働く人にとって、人間らしい仕事を実現するための共通の課題なのです。



安全・安心を守る ～コロナ下の女性への影響に対して～

新型コロナウイルス感染症の拡大と外出制限は、社会のさまざまな面で大きな影響を及ぼしていますが、特に女性に深刻な影響が広がっています。

女性の就業者数の減少は男性の1.8倍。自殺者数は前年に比べて、女性は935人増加（男性は23人減少）。DV相談件数は1.6倍増加するなど、男女でその影響が大きく異なっていることがわかってきました。

- 女性就業者数：2020年4月で70万人減、男性の39万人減に比べて1.8倍 総務省労働力調査
- 自殺者数：2020年合計で、男性は対前年で23人の減少（2019年：14,078人、2020年14,055人）
女性は935人の増加（2019年：6,091人、2020年：7,026人） 警察庁HP
- DV相談件数：2019年度 119,276件、2020年度 190,030件 1.6倍 内閣府男女共同参画局調べ（速報値）

コロナ下の 緊急対応

女性の安全・安心を守る取り組み① 相談事業 社会とのつながりを回復し、絶やさない



コロナ下の新しい生活様式であるソーシャルディスタンスは、私たちを感染症から守っています。一方で大きな危険をもたらしています。外出自粛による在宅時間の増加は、女性たちの孤立を増やし、必要な助けを遠ざけてしまうからです。国連ウィメンのムランボ＝ヌクカ事務局長は「女性に対する暴力という陰のパンデミック（世界的大流行）」だとして、全世界にその対策を求めました。

財団では、配偶者暴力相談支援センター事業の1つとして、電話による相談に加え、2020年5月からDVメール相談を始めました。緊急対策として、周知も十分でないまま始めましたが、5月は24件の相談があり、年間の相談件数は410件にのぼりました。年代別で見ると30代が45%と最も多く、時間帯では21時から9時までの夜間から早朝にかけての相談が約3割となっています。

時間帯を選ばないことや、電話を使わない若い層にとっても相談しやすいファーストコンタクトとしての相談機能

を果たすことができました。

さらに、女性の悩み相談においても電話・面接による相談に加え、2021年1月からメール相談を始めました。4月末までの4か月間で188件の相談がありました。夜間から早朝にかけての相談が多い点は、DVメール相談と共通しています。異なる特徴は、「些細な悩みでもいいですか？」といったケースの多さです。生活面での負担や不安を感じている方も、返信によって（社会との）つながりを感じて落ち着きを取り戻す様子うかがえます。また、「どこに相談したらよいかわからなかった」というケースも多く、支援の窓口にとどり着いていない人も多くいることがわかります。

さまざまな困難を抱える女性や、孤独・孤立で不安を抱える女性が必要な支援に結び付くこと、そして、社会とのつながりを回復する・絶やさないことをめざして、今後も相談事業の継続・充実に取り組んでいきます。

コロナ下の 緊急対応

女性の安全・安心を守る取り組み② DV被害者を支援 夕陽丘基金から緊急一時金を交付



相談窓口にアクセスされた方を、適切な支援につなぐことが重要です。2021年1月13日に緊急事態宣言が発令され、DV被害者支援の強化も求められていました。

しかし、DVや性被害などの暴力により保護が必要な女性への一時保護施設・シェルターなどは、人的・経済的な運営面の課題が一層厳しくなっている状況でした。

そこで、財団が事務局を担っている夕陽丘基金では、暴力被害者の一時保護や自立支援を行っている団体を対象に支援活動の持続化への一助として、2月初旬に助成金を交付しました（大阪市内の7団体に各10万円）。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により寄付や活動資金の減少が課題となっていた団体が少なくない中、活動スタッフへの人件費や団体・施設の家賃・光熱水費など、

幅広く柔軟に活用できる交付金としました。

夕陽丘基金は、現在の公的制度で十分な支援が受けられない状況にあるDV被害者やその同伴者（主に子ども）に対して、経済的な援助や、心身の回復を図り、自立を支援するための基金です。2004年3月に大阪市の女性団体などが設立しました。市民の募金から成り立つ同基金の事務局として、財団は運営にあたっています。

この交付金の取り組みは、小規模であっても、シェルターを通じて必要な人へ再配分するという基金の目的に沿ったものとして役立てていただきました。

これからも支援団体や支援者の皆さまと共に、女性の安全・安心を守りエンパワメントにつながる取り組みに力を入れてまいります。



クレオ大阪×SDGs セミナー・イベント 2020

クレオ大阪各館では、市民が気軽に参加できる無料セミナーを展開。
多彩なテーマで関心を高め、自らアクションを起こすきっかけをつくっています。



社会を動かすキャンペーンを考えよう

クレオ大阪中央

10/10 10/17

ジェンダー格差や、環境汚染、貧困問題。1人で行動するよりも、公共機関・民間企業と一緒に考え、実行に移すことが、社会を変える近道です。ただ大きな声を上げるだけでは、自分の思いに共感する仲間を増やせません。相手を知る“受信力”を強化し、対象や時期について戦略を立てることを学びました。受講後、教育現場の視点から自治体に提言し、大きな反響を得た参加者もいます。



コロナ禍で見えてきた住まいと暮らしの不安

クレオ大阪子育て館

11/21

「居住福祉」や「社会保障」を切り口に、シングルマザーや非正規雇用の女性の支援事例を共有しました。シングルマザー限定のシェアハウス運営者は「社会的弱者のシェルターとしての住まいではなく、1人1人が人生を謳歌し、主体的に実現する権利や力があると実感できる住まい」を提唱。コロナ禍で女性を取り巻く環境の厳しさが増す中、一歩進んだポジティブな取り組みに関心が集まりました



SDGs LABO2021 わかものアイデアコンテスト

クレオ大阪西

3/21

「自分たちの住むまちを自分たちの力で変える！」をコンセプトに、10～20代の学生がSDGsの課題解決に向けてプレゼン。LGBTsの居場所づくりに取り組む高校生は、多目的トイレを題材に、性別に違和感がある人が安心して暮らせる環境整備を呼びかけました。入賞者の活動は、クレオ大阪西が継続的に支援します。



ひきこもりから考える～ひきこもりを支援するとは～

クレオ大阪南

12/16

ひきこもり状態にある人の、長期化・高齢化の深刻さが増えています。自立を呼びかけるだけでは支援者、当事者どちらも疲れ、傷つく結果になりかねません。人をどう動かすかではなく、周囲の環境や社会構造に焦点を当てること。生きづらさの根幹に向き合う、本当の意味での支援について考えました。



男のしゃべり場

クレオ大阪東

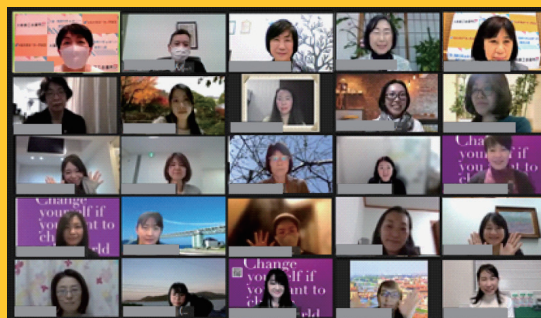
12/5 1/23

「男らしさ」に縛られ、息苦しさを抱える男性は少なくありません。そんな人のための、職場でも家庭でもない「第3の居場所」。夫婦や子ども、職場での人間関係のモヤモヤについて、男性同士がフラットに語り合いました。人と直接会う機会が減った今だからこそ、続けていきたい企画です。

サステナブルな社会に向けて連携

企業・行政・大学・非営利団体といった所属の垣根を越えて連携することで、大阪・関西の未来をジェンダー視点から共に創り上げるプロジェクト。2014年度にスタートし、第4回となる今回は、オンラインで集った約70人が、2025年の大阪万博に向け、理想としたい未来について意見交換しました。関西経済同友会代表幹事の生駒京子さんや、フェアトレードショップ「Love&sense」を運営する高津玉枝さんは、「わくわくと楽しみながらサステナブルな社会に変革していきましょう」と呼びかけ。それぞれが刺激を受け、励まされるひとときを過ごしました。参加者は、早速SNSでつながるなど、行動の輪を生み出すネットワークを広げています。

3/23 大阪・関西女性のみらい創造会議



参加者の感想

- さまざまな形、立場でジェンダー平等に向けて活動している方とお話でき、勇気もらった。
- 後日お話をする約束をし、数名の方とSNSでつながった。今後が楽しみです。
- 何か新しいことを始めようという気持ちになった。



クレオ大阪が編集する「大阪市男女共同参画情報誌クレオ」。

5・6月号では、LGBTsの人権やファッションの多様性など、SDGsを身近な課題から読み解き、社会を変えようと動き出した若い世代を紹介しています。

財団職員も負けてはいられません！

仕事や暮らしの中で取り組む、私たちのSDGsのアイデアを紹介！ちょっとした考え方、行動1つで世界は変わります。

皆さんの感想やアイデアも、ぜひ「#つくろう未来のカタチ」のハッシュタグとともにSNSに投稿してください。



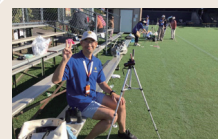
1. 貧困をなくそう

クレオ大阪東で、子ども食堂などに食品の寄付を募る「フードドライブ」をNPO法人と協力して実施しました。子どもの貧困について考える取り組みを今後も続けたいです！



3. すべての人に健康と福祉を

毎日の犬のお散歩。いつの間にか私のお散歩。気分転換と食後の運動になっています。季節や風を感じられるのが醍醐味です。わんこの元気は私の元気！



4. 質の高い教育をみんなに

受験生を全集中で応援する父親の一人ですが、自分も仕事に勉強に趣味に挑戦するのがいいと気づきました。天文学を大学で、ピアノはアプリで勉強中です。



5. ジェンダー平等を実現しよう

日常で感じるモヤモヤや心の中にあるゴツゴツとした違和感…こんな自分の気持ちに気がつくことがジェンダー平等への第一歩。自分から声を上げられなくても、友達の発信にイイねしたり、できることをできるときに。



つくろう未来のカタチ



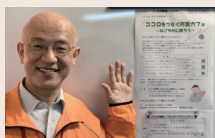
8. 働きがいも経済成長も

趣味のハイキングや登山を楽しみに、できるだけ無駄な仕事を減らす、残業しないなど、自分の業務を見直し、取り組んでいます。



10. 人や国の不平等をなくそう

初対面の人と話すときは、その人自身がどんなことを感じ、考えているのかを知るようにしています。勝手な思い込みやきめつけで、誤解をしてはもったいないですから！



11. 住み続けられるまちづくりを

私は、産業カウンセラー、防災士等の資格を活かし、「住み続けられるまちを創る」ために、「対話カフェ」で、地域に人と人との新しい繋がりを創ります。



17. パートナーシップで目標を達成しよう

個人で所属している防災研究会と英語スピーチクラブでの活動はオンラインで。孫や友人ともZoomで気軽におしゃべりしています。ホワイトリボンランにもリモートで参加しました！



大阪市男女いきいき財団 NEWS

発行

大阪市男女いきいき財団 正式名称 一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会

〒543-0002 大阪市天王寺区上汐5-6-25 クレオ大阪中央内

TEL : 06-7656-9040 FAX : 06-7656-9045 <https://www.danjo.osaka.jp/>